

2006年夏(6月～8月)の東北地方の天候

- ・東北北部の少雨
- ・7月の記録的な寡照
- ・7月の低温、8月の高温
- ・遅い梅雨明け

(1) 2006年夏(6月～8月)の天候

梅雨入りは東北南部で平年並の6月9日ごろ、東北北部で平年より遅い6月15日ごろだった。6月下旬になると一旦梅雨前線は本州の南海上まで南下し、東北地方は晴れて気温の高い日が多く、東北北部の月降水量は少なかった。7月になると梅雨前線は本州南岸に停滞することが多くなり、気圧の谷やオホーツク海高気圧の影響も受けやすく、気温が低く記録的な寡照となった。また、東北南部では多雨となった。8月に入ると急速に太平洋高気圧が強まり、東北南部、東北北部ともに平年より遅い8月2日ごろに梅雨明けとなった。梅雨明け後は太平洋高気圧に覆われ、晴れて気温の高い日が多く、少雨となった。

東北北部では6月と8月の少雨を反映して夏合計降水量はかなり少なかった。

3か月平均気温は東北北部で平年並、東北南部で高い。3か月間降水量は東北北部でかなり少なく、東北南部で多い。3か月間日照時間は東北地方で少ない。

6月： 上旬後半から中旬前半はオホーツク海高気圧の影響で東北太平洋側を中心に曇りや雨の日が多く、各地で気温の低い日が多かった。特に中旬は日照時間が平年を大きく下回った。東北地方は9日ごろに南部で、15日ごろに北部で梅雨入りした。月の後半は天気が周期的に変わり、下旬は晴れて気温の高い日が多く、降水量が少なかった。

月平均気温は東北北部で平年並、東北南部で高い。月降水量は東北北部で少なく、東北南部で平年並。月間日照時間は東北北部で少なく、東北南部で平年並。

7月： 東北地方は、梅雨前線や気圧の谷、オホーツク海高気圧の影響で曇りや雨の日が多く、日照時間がかなり少なくなり、気温は平年を下回る日が多かった。盛岡、大船渡、新庄、酒田、若松では7月の月間日照時間の少ない極値を更新した。梅雨前線は本州の南岸付近に停滞することが多かったが、中旬や下旬は一時的に東北地方まで北上し、東北南部では大雨となった。

月平均気温は東北地方で低い。月降水量は東北北部で平年並、東北南部でかなり多い。月間日照時間は東北地方でかなり少ない。

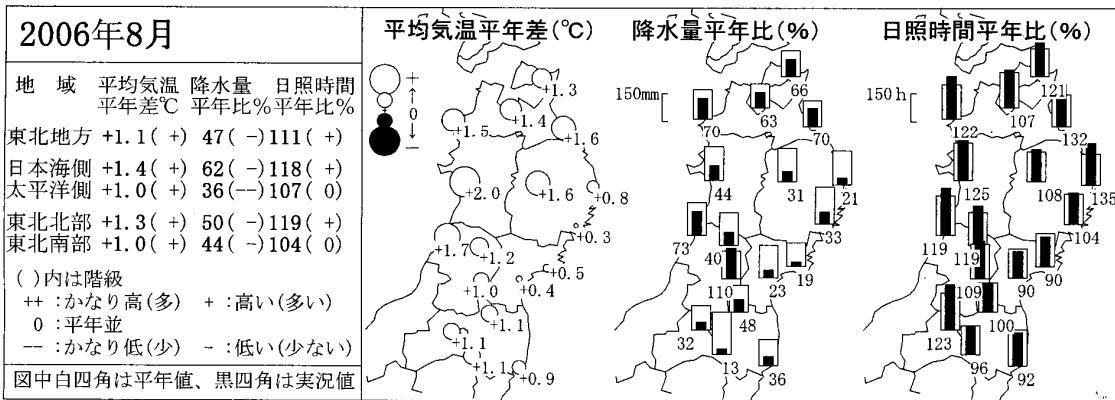
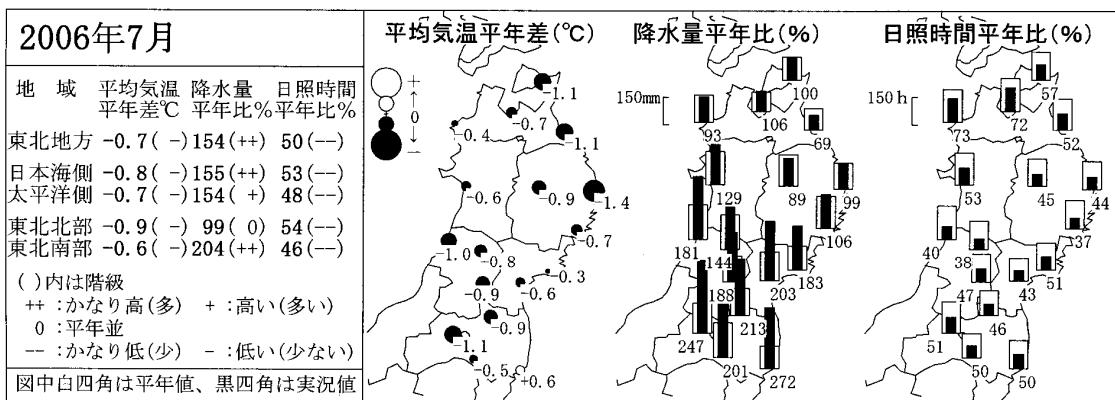
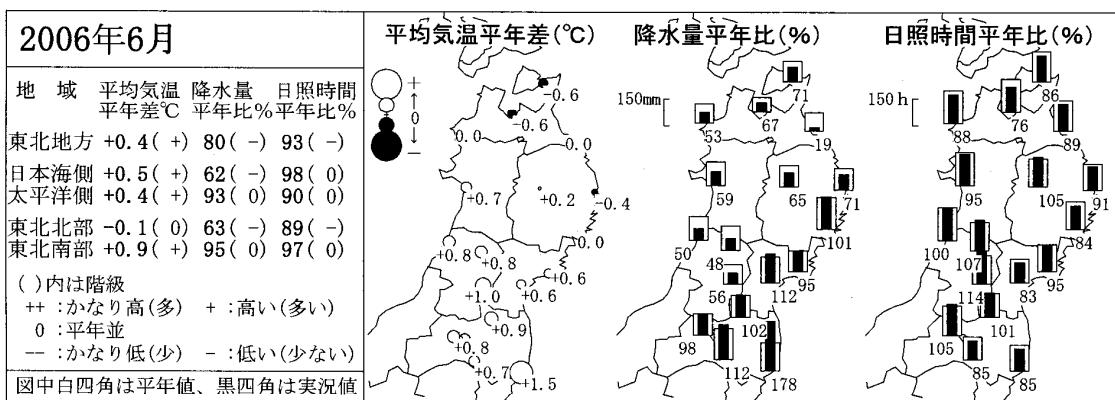
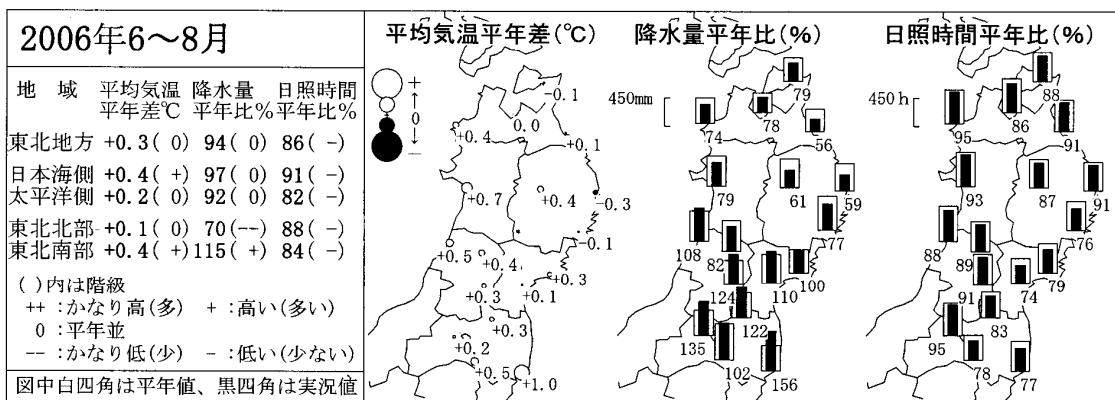
8月： 太平洋高気圧が平年に比べて北に張り出したため、東北地方は晴れて暑い日が多かった。期間の中頃、日本の南海上をゆっくりと北上し日本海へ進んだ台風第10号の影響により、暖かい湿った空気が流入し東北日本海側では顕著なフェーン現象が発生した。これにより、東北日本海側では日最高気温が35℃を超える日もあり、秋田と酒田では16日から22日にかけて7日連続熱帯夜となった。一時的に寒気や気圧の谷の影響によりにわか雨や雷雨となった所もあったが、太平洋高気圧が平年より北に張り出したため前線の影響を受けることが少なく、月降水量は少なかった。なお、今年の梅雨明けは遅く、東北南部、東北北部とも8月2日ごろであった(東北南部の梅雨明けは遅い方から第4位)。

月平均気温は東北地方で高い。月降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり少ない。月間日照時間は東北北部で多く、東北南部で平年並。

注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971-2000年です。階級区分については、3ページ目脚注を参照して下さい。

(2) 2006年夏(6月～8月)の季節・月平均(合計)値の平年差(比)



注) 東北日本海側: 青森県津軽地方、秋田県、山形県、福島県会津地方

東北太平洋側: 青森県下北・三八上北地方、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り地方

東北北部: 青森県、秋田県、岩手県

東北南部: 宮城県、山形県、福島県

(3) 2006年夏(6月～8月)の気候表

地 点 名	平均気温(平年差)		階級	降水量(平年比)		階級	降水日数	日照時間(平年比)		階級
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)			≥1mm	(h)	
青 森	20.4	(-0.0)	○	246.0	(78)	—	25	469.7	(86)	—
深 浦	20.9	(+0.4)	+	305.0	(74)	—	24	514.7	(95)	—
む つ	18.8	(-0.1)	○	293.5	(79)	—	26	409.8	(88)	—
八 戸	19.7	(+0.1)	○	198.5	(56)	—*	24	465.3	(91)	—
秋 田	22.7	(+0.7)	+	385.0	(79)	○	35	510.6	(93)	—
盛 岡	21.4	(+0.4)	+	278.0	(61)	—	31	393.8	(87)	—
大 船 渡	20.3	(-0.1)	○	419.0	(77)	—	39	347.5	(76)	—
宮 古	19.1	(-0.3)	○	258.0	(59)	—	24	415.4	(91)	○
仙 台	21.6	(+0.1)	○	519.5	(110)	+	37	302.3	(74)	—
石 卷	21.1	(+0.3)	○	369.5	(100)	○	34	374.8	(79)	—
山 形	22.8	(+0.3)	○	491.5	(124)	+	34	450.8	(91)	—
新 庄	22.0	(+0.4)	+	400.5	(82)	○	36	433.2	(89)	—
酒 田	23.0	(+0.5)	+	529.0	(108)	○	36	498.6	(88)	—
福 島	23.2	(+0.3)	○	497.0	(122)	+	35	352.3	(83)	—
若 松	22.9	(+0.2)	○	550.0	(135)	+	33	497.4	(95)	—
白 河	21.7	(+0.5)	+	594.0	(102)	○	43	315.8	(78)	—
小 名 浜	22.3	(+1.0)	+	644.0	(156)	+*	33	373.2	(77)	—

(注) 1. 平年値は1971～2000年の資料から求めた。

2. 「階級」の欄の符号は、以下のことを示す。

+:高い(多い)

○:平年並

-:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、階級が「高い(多い)」「低い(少ない)」となった地点のうち、1971～2000年間の中で、高い(多い)方または低い(少ない)方から10%に入る極端な値である場合には、階級の「+」に*を付加した。この場合には

かなり高い(多い)

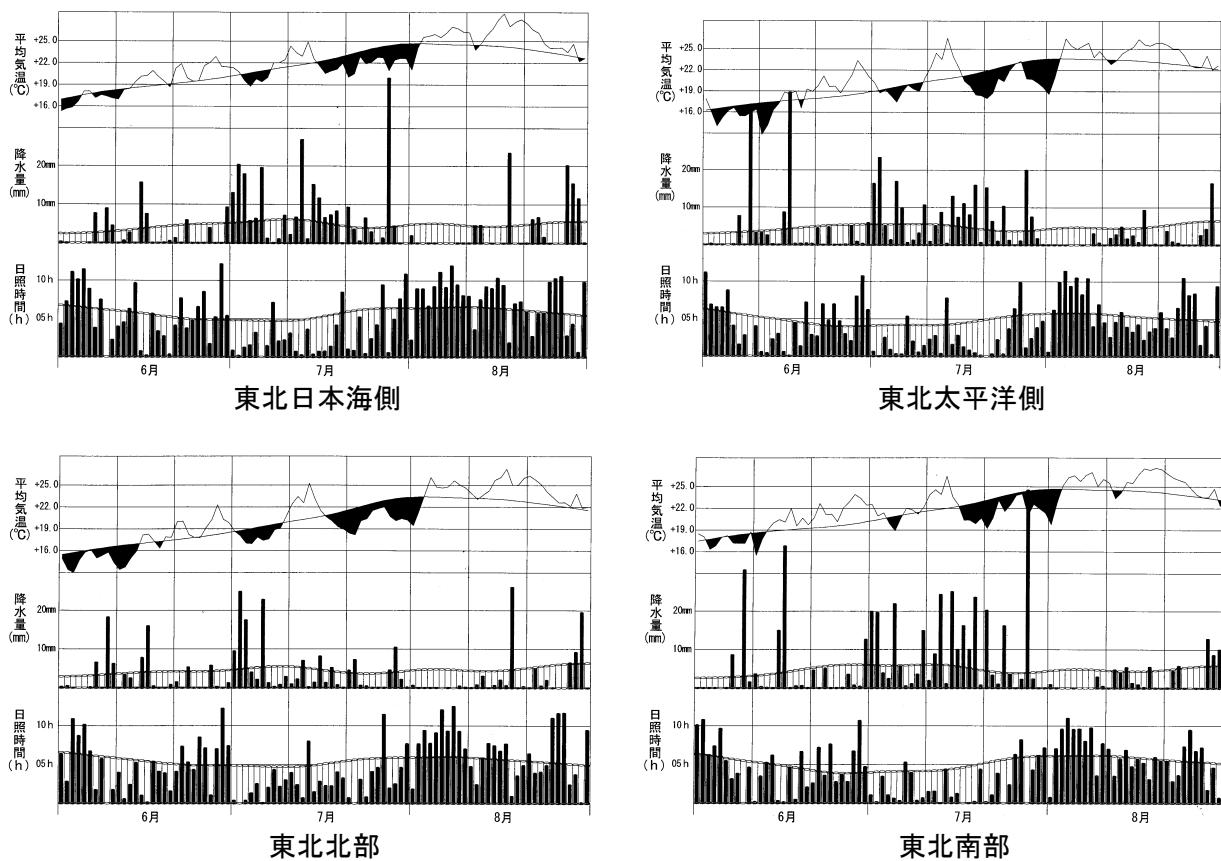
かなり低い(少ない)

と表現できる。

3. 値の横に)や]がある場合には、3か月別値を求める際に使用したデータ(月別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準完全値)は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計月数(統計に用いた、品質が十分な月別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、月別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(4) 2006年夏(6月～8月)の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

(5) 2006年夏(6月～8月)の極値・順位更新

(3か月平均気温、3か月間降水量、3か月間日照時間の3位以内のみ)

なし

(6) 月統計値の極値更新

(月平均気温、月降水量、月間日照時間の1位のみ。)

月降水量少ない方からの順位更新

月	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最小 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
6月	八戸	19.0	19	31.5 (1985)	1937	99.2
8月	白河	30.0	13	37.0 (1984)	1940	228.2

月間日照時間少ない方からの順位更新

月	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h (西暦年)	開始年	平年値 h
7月	大船渡	55.1	37	58.5 (2003)	1964	150.0
	新庄	58.1	38	72.4 (1966)	1958	154.4
	若松	86.5	51	87.1 (1974)	1954	168.9
	盛岡	64.1	45	65.0 (1941)	1924	143.2
	酒田	72.4	40	89.5 (1966)	1937	179.8

(7) 日最高気温 30°C以上日の日数と今夏の最高気温

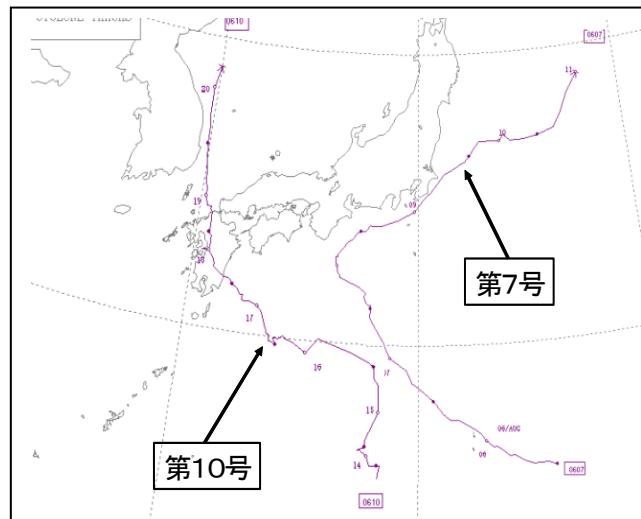
	6月			7月			8月			夏			今夏の最高気温 (°C)	今夏の最高気温 (起日)
	05年	06年	平年	05年	06年	平年	05年	06年	平年	05年	06年	平年		
青森	2	0	0.4	1	1	3.9	7	12	7.6	10	13	11.9	33.1	7月 14日
深浦	0	0	0.0	0	0	1.4	6	10	3.9	6	10	5.2	33.3	8月 16日
むつ	0	0	0.1	1	1	2.1	5	8	4.0	6	9	6.2	33.1	8月 17日
八戸	2	1	0.6	1	1	5.2	9	9	7.4	12	11	13.2	35.6	8月 17日
秋田	2	0	0.2	0	2	4.9	16	19	9.7	18	21	14.8	36.7	8月 17日
盛岡	1	0	0.8	4	0	6.5	13	19	10.1	18	19	17.4	35.2	8月 8日
大船渡	2	0	0.4	2	2	3.4	8	1	5.7	12	3	9.6	32.9	7月 14日
宮古	1	1	0.6	4	2	4.4	9	9	6.8	14	12	11.7	33.4	8月 4日
山形	10	3	2.4	10	6	11.7	17	24	17.5	37	33	31.6	34.4	8月 7日
酒田	3	0	0.5	3	1	6.5	20	19	12.6	26	20	19.6	37.0	8月 17日
新庄	6	0	1.1	6	0	7.9	16	24	13.0	28	24	22.0	34.9	8月 8日
仙台	2	2	0.4	4	2	5.1	11	8	9.9	17	12	15.4	33.9	8月 4日
石巻	1	0	0.1	0	1	2.3	5	4	4.8	6	5	7.2	32.7	8月 4日
福島	8	4	3.4	10	5	13.3	20	23	18.1	38	32	34.9	35.6	8月 3日
若松	6	1	2.2	8	3	12.1	18	24	18.4	32	28	32.7	35.4	8月 7日
白河	4	0	0.6	7	2	6.8	14	18	10.7	25	20	18.2	33.7	8月 4日
小名浜	0	0	0.3	4	1	1.9	3	3	3.8	7	4	6.0	31.9	8月 5日

(8) 2006年夏(6~8月)に日本(本土)に接近した台風

今年の台風は、5月9日に台風第1号が発生して以来、8月31日現在12個発生している。夏(6~8月)の台風発生数は平年(11.2個)とほぼ同じく11個、上陸数も平年(1.6個)とほぼ同じく1個であった。本土接近数は平年(3.1個)より少ない2個であった。

8月5日に発生した台風第7号は、8日から10日にかけて本州に接近し本州南岸を進んだが、東北地方に大きな影響はなかった。

8月13日に発生した台風第10号は、日本の南海上をゆっくりと北上し18日に宮崎県に上陸後、日本海へ進んだ。この期間、東北地方へは暖かく湿った空気が入り、東北日本海側ではフェーン現象の効果も加わり高温となった。また、18日は大気の状態が不安定となり大雨となったところがあった。

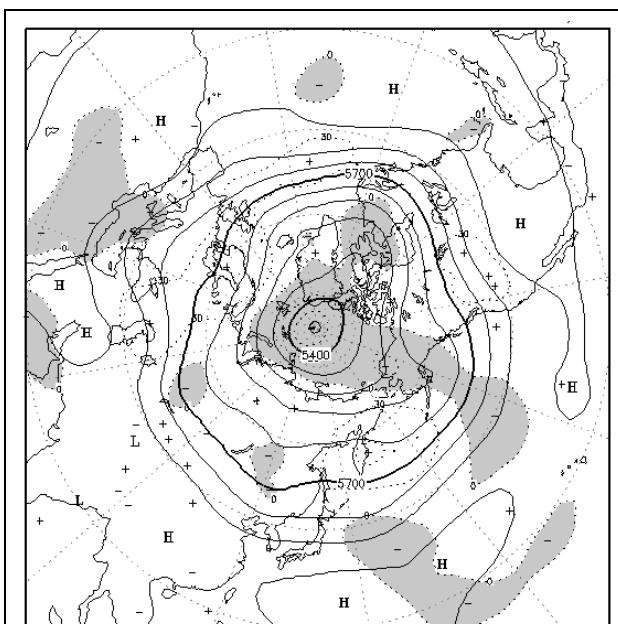


2006年夏に接近した台風の経路図

今年と平年の月別の台風発生数、上陸数、本土接近数(2006年8月31日現在)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
発生数	今年					1	1	3	7					
	平年	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	2.5	1.3	26.7
上陸数	今年								1					
	平年						0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0		2.6
接近数	今年								2					
	平年					0.0	0.3	1.2	1.6	1.6	0.7	0.0		5.2

(9) 北半球の大気の流れ(6月～8月)



6月～8月の平均500hPa高度・平年偏差図
実線は高度(m)、間隔60m。破線は偏差(m)、間隔30m。陰影部は負偏差域。

6月～8月の平均500hPa高度を見ると、極付近は負偏差で極うずが強く、中・低緯度では正偏差が広がっており、気温の高かったことを示している。日本付近も広く正偏差となっており、日本の南の亜熱帯高気圧も平年より強かった。一方、オホーツク海からカムチャツカ半島、アリューシャン列島にかけては正偏差が広がっており、これに対応してオホーツク海では高気圧がたびたび発生し、東北太平洋側では北部を中心に影響を受けることがあった。

このため、東北地方の夏平均気温は平年を上回ったものの東北太平洋側では相対的に気温が低く、平年を下回った地点もあった。